

AED の使い方を知っていますか？

心肺停止状態で心肺蘇生法を行っても心拍が戻らない事故者に対して電気ショックにより除細動を行うことを目的として使用する。

(有効性)

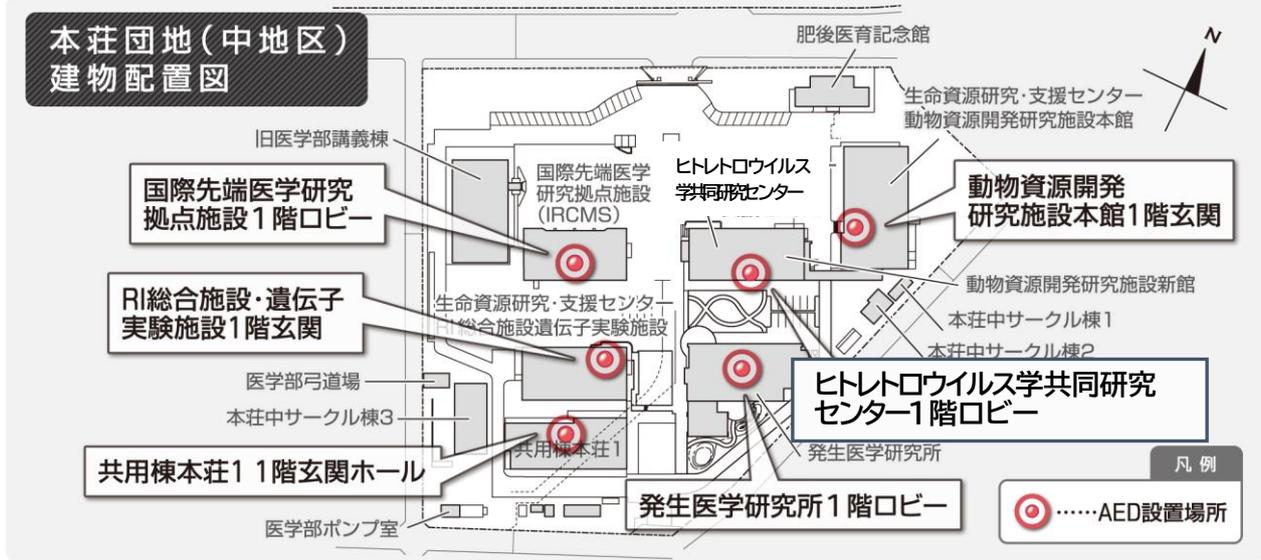
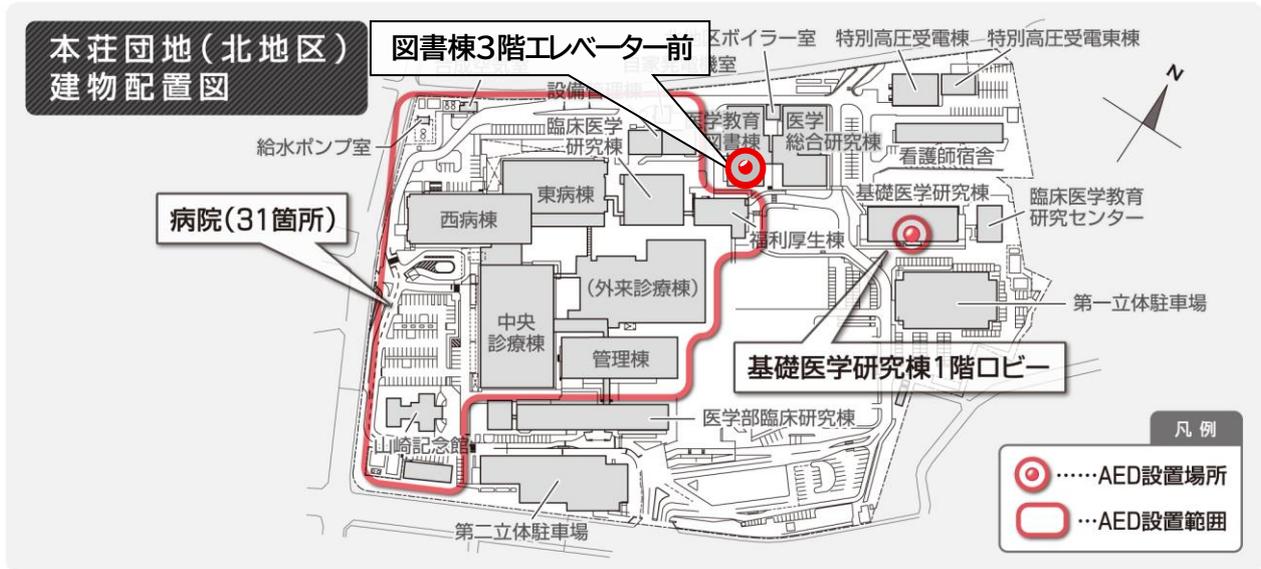
AED による除細動は、一刻も早く行うことが重要である。除細動が 1 分遅れるごとに救命効果は 7～8 パーセント下がると言われている。いかに早く行うかが傷病者の予後を大きく左右する。

(使用方法)

- ① 胸骨圧迫している人のじゃまにならないように AED を傷病者の横に置く。
- ② AED の電源を入れ音声案内に従う。(AED が到着しても心肺蘇生法は持続する。)
 - 1) 電極パッドを貼り、ケーブルを接続する。
 - 2) 心電図が解析される。
 - 3) 除細動（電気ショック）の指示が出たら、感電に注意してショックボタンを押し、除細動を行う。あるいは、除細動不要の指示が出たらすぐ胸骨圧迫を行う。
- ③ 電極パッドは装着したままにし、すぐに心肺蘇生法を再開する。2 分後に心電図解析が行われる。意識が回復したり、自発呼吸が確認できれば胸骨圧迫は中止して、注意深く観察する。

AED が大学の中のどこにおいてあるか把握しておくこと。

AED〔自動体外式除細動器〕の設置場所 - 本荘地区



注) 建物の開閉時間により、AED が使用できないこともあります。

令和3年4月現在

AED〔自動体外式除細動器〕の設置場所 -大江地区・その他



〈京町地区〉-	附属小学校	・1階保健室 ・教官室 ・体育館
	附属中学校	・1階保健室 ・事務室横 ・体育館
〈城東地区〉-	附属幼稚園	・管理棟1階保健室
〈渡鹿地区〉-	大江総合運動場	・体育館1階玄関
〈その他〉-	学生寄宿舍	・共通棟1階事務室横
	国際交流会館	・A棟1階玄関ホール
	合津マリンステーション	・研究実習棟1階トイレ横

注) 建物の開閉時間により、AEDが使用できないこともあります。

令和3年4月現在

〈 AED〔自動体外式除細動器〕の使用について

心肺停止状態で心肺蘇生法を行っても心拍が戻らない事故者に対して電気ショックにより除細動を行うことを目的として使用する。

—— 有効性 ——

AEDによる除細動は、一刻も早く行うことが重要である。心臓が停止してから除細動が1分遅れることに救命効果は7～8パーセント下がると言われている。いかに早く行うかが傷病者の予後を大きく左右する。また除細動は、心室細動や無脈性心室頻拍出に陥ってしまった心臓に一番有効な処置と言われている。

—— 使用方法 ——

AEDは傷病者の胸部に電極パッドを貼りつけると、機器が自動的に心電図の波形を解析して、必要があると判断された場合、通電ボタンを押すことで除細動を行うことができ、必要時以外は電気ショックを求めるメッセージは流れず、誤った通電はできないような仕組みになっている。